



Topics!

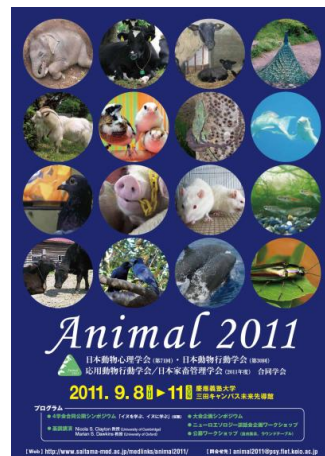
- 9月 9日(金):青森市で開催された第61回東北畜産学会シンポジウムにて、佐藤教授が『福島原発20km圏内に取り残されたウシの保護プロジェクト』の招待講演を行いました!
- 9月 8日(木):慶応義塾大学三田キャンパスで行われた日本動物心理学会、日本動物行動学会、応用動物行動学会、日本家畜管理学会の共催による『Animal 2011』にて親川助教がポスター発表を行いました!
- 9月30日(金):佐藤教授・小原客員研究員は宮崎県にてブロイラー農場の視察を行い、ウェルフェア視点からの農場評価調査を実施しました。
- 10月3日(月):福島県畜産試験場 養鶏分場にて、親川助教がニワトリの音響調査を実施しました。
- 10月7日(金):『平成23年アニマルウェルフェア普及啓発セミナー -ブロイラー農場におけるアニマルウェルフェアの向上を目指して-』が(社)畜産技術協会主催、当講座を後援として開催されました!

Animal 2011(慶応義塾大学三田キャンパス)にて
親川助教が研究成果のポスター発表を行いました!



Animal2011は、応用動物行動学会、家畜管理学会、動物行動学会、動物心理学会の4大会合同大会でした。そのため、発表される研究は家畜動物にとどまらず多種多様で手法也多岐に渡っていました。これまで議論する機会がなかった研究者らとの交流により、研究における視野が広がるとともに、我々の研究分野の持つ重要な役割を再認識するよい機会となりました。

本発表で取り扱った、快適ホルモンとされるオキシトシンの分泌にはまだ解明されていない部分が多く、脳へ直接投与した研究を行っているグループとも意見や情報の交換をすることができ、研究結果への考察を深めることができました。



宮崎県ブロイラー農場にて、
AWに関する実施事例の収集を行いました!

本調査は、(社)畜産技術協会、東北大学、北海道大学、信州大学、及び麻布大学が平成23～25年度に協働で実施する「アニマルウェルフェアに対応した飼養管理技術確立事業」の一環として、



優良経営農家等への聞き取りにより、AWに関する実施事例の収集を目的に行なったものです。宮崎県のブロイラー農場数件を訪問し、OIEが本年度の総会に提出した「ブロイラー生産システムに関するAW基準」並びにEUが開発した「農場におけるAW評価法」に基づき評価し、AWの観点から評価できる部分と解決すべき部分の抽出を行いました。結果については、産卵鶏、肉用牛、乳用牛、及び豚の各生産システムの評価とともに、本年度内に報告する予定です。

赤鷄農業協同組合にて、小原客員研究員が 農場のアニマルウェルフェア評価を行いました。

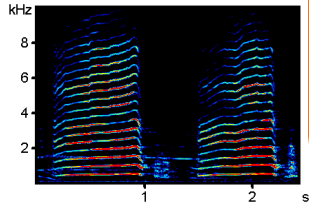
赤鷄農業協同組合組合長田下様をはじめ、顧問獣医師の臺様、生産部の橋本様、営業部野間口様にご協力いただき8月8日に調査させていただきました。また生産部生産管理課の田島様他数名の若手社員の方ともウェルフェアについて率直な質問やご意見を頂き調査のみならず、大変勉強になりました。調査基準はOIEのブロイラー飼養管理基準草案の12項目を参考に、飼養管理、鶏の状態、施設などの項目を確認しました。調査報告およびAW改善対策を提案しましたが、それに対するご意見やご指摘を頂けると、さらにウェルフェアと生産性の関係が現実的なものになると思いますので、今後ともよろしくお願いたします。



福島県畜産試験場にて、親川助教がニワトリの音響調査を実施しました。



過度のストレス時
音声(捕獲作業)



本調査は、福島県畜産試験場養鶏分場の調査協力により行われました。福島県養鶏分場では、採卵や相性試験など目的別にさまざまな飼育形式をしています。平飼い(雌雄別飼育・ハーレム飼育)、ケージでの群飼育(雌雄別飼育・ハーレム飼育)、個別ケージ飼育などさまざまです。ストレスと音声の関係性を明らかにするために重要な基礎調査となります。今後も研究協力関係を続けさせていただくことで、調査を発展させていく予定です。

★報告★ 平成23年度 アニマルウェルフェア(AW)普及啓発セミナー -ブロイラー農場におけるAWの向上を目指して- を開催しました！

平成23年10月7日(金)、(社)畜産技術協会の主催で東京にて開催されました。トピックが「ブロイラー農場のAWの向上」ということで、養鶏にかかわる多くの方々が集結いたしました。今回のセミナーでは、AWの国内外の情勢、AW指標としてよく用いられるブロイラーの趾蹠皮膚炎の発生実態と予防対策、また実際のブロイラー農場実態調査から見えてくるAW向上を目指す飼養管理の考え方など、3名の講師によって紹介されました。総合討論の際には、講師だけでなく会場の参加者の方々からも意見が交わされ、「生産者側だけでなく消費者のAWに対する意識向上の必要性」や「AWに配慮した飼育現場は飼育労働者の福祉にもつながる」という重要なキーワードも話題に上りました。多くの方が集まることで、さまざまな視点の意見が交わされる有意義なセミナーとなりました。



編集後記

先日行われましたAW普及啓発セミナーでは、沢山の皆様に参加頂き、誠にありがとうございました。様々な意見を頂き、当研究室でのAW研究・普及活動にも一層の励みになりました。10月に入り、寒い日が多くなってきましたので、風邪などひかぬようご自愛くださいませ。

